

独断

注目商品

REVIEW

2本仕立ての両側枝の生育がそろそろトレイ出荷のトマト接木苗

野菜苗

5 ツートップ® 苗



希望小売価格：(72穴セルトレイ) 15,324円、
(128穴セルトレイ) 26,775円(税込)
※穂木「りんか409」・台木「ブロック」の場合

■お問い合わせ
株式会社サカタのタネ 野菜統括部
〒224-0041 横浜市都筑区仲町台2-1-1
TEL: 045-945-8802
<http://www.sakataseed.co.jp>

トマトの生産現場で需要が高まっている接木苗。施設栽培が主流のトマトでは病気の発生を避けるため、病気に強い接木苗の需要は半数近くに及ぶという。土壌病害に強い品種を台木に、食味・大きさ・形に優れた品種を穂木として接合する。接木苗はかつて自家育苗されていたが、ある程度の知識と経験が必要な作業になることから、育苗・接木作業を外注するケースも増えている。

一般的にトマトの苗は、主茎のみを育てる「1本仕立て」でつくる。さらに近年では、主茎と側枝、あるいは主茎を摘芯して側枝を2本伸ばす「2本仕立て」も普及してきた。しかし、主茎と側枝では成長速度が異なり、本葉2〜3枚で主茎の摘芯を行なう場合にも側枝が発生する時間差の影響で2本の枝の成長はそろわない。株ごとに苗の植え付け方や誘引方法を変える工夫が生産現場側に求められていた。

両枝のバランスが良く収量も安定
今回、(株)サカタのタネが発表したのは、子葉2枚のすぐ上で主茎を摘芯し、同時に2本の側枝を出させた「ツートップ® 苗」。2本の枝は水平に誘引しやすく、成長バランスが良く、水分や養分が均等に行き渡り、生育がそろるのが特徴である。ほぼ1本仕立て栽培と変わらない7〜8節で1段目の花房がつき、その後も、3葉おきに花房がつくため、初期から収量が安定する。同社がニーズを見込んでいるのは、15段以上の越冬・長段栽培を行なう生産者だ。1本の苗当たりの収量目標は、1段当たりトマトは3〜4果つので、2本の側枝で120個に相当する。ただし、1本当たりの栽培面積は、1本仕立てと変わらない。

同社によると、種子から栽培する場合に35a規模で1297時間かかった作業時間は、1本仕立て苗の購入によって約80時間減り、ツートップ苗による栽培では、さらに50時間以上削減できるといふ。移植手間は1本仕立ての半分になり、従来の2本仕立てに比べて管理作業の省力化も期待できるようだ。

輸送費は1/10程度に
独自の生産技術により出荷段階の苗のサイズが小さくなり、セルトレイでの輸送が可能になった。苗代が

1株当たり200円程度になるだけでなく、従来の2本仕立てのポット苗1株当たり15円かかっていた輸送コストは同1円程度的大幅なコストダウンとなる。

同社の大玉トマトの主要品種と一部のミニトマトで、受注生産方式で販売を始める。山形県、岐阜県、福岡県の3つの生産拠点を構え、5月より受注を開始し、7月上旬からの出荷に向けて動き出している。トマトの生産現場を変える種苗の技術革新に注目したい。

(加藤祐子)

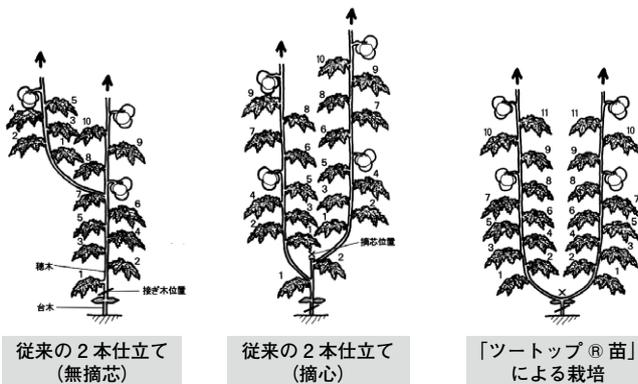


図 2本仕立て栽培の種類とそれぞれの花房の着生位置